

イワシ類長期予報(令和8年8月～12月)が発表されました！

漁業生産研究所 海洋資源グループ

太平洋海域におけるイワシ類の長期漁海況予報が、8月3日に国立研究開発法人水産研究・教育機構から発表されました。このうち、本県および周辺海域の予報は以下のとおりです。

1 海況

黒潮流路は5つの流型に分類される(図1)。今後、黒潮は主にN型で推移するが、9月までは一時的にB型またはC型となる(図1、2)。

遠州灘の沿岸水温は、平年と比べて「やや低め」～「やや高め」で推移し、黒潮由来の暖水の影響を受けるときには「やや高め」～「極めて高め」となる。

2 マイワシ：漁獲量は前年を下回る

春のマシラスの来遊状況から、シラス全体に占める割合が低かったこと、漁獲される期間が短かったことから加入は1群のみで構成されると考えられ、前年を下回ると予測される。

3 カタクチイワシ：漁獲量は前年並み

春に外海から内湾へ来遊したシラスの量は多かったが、6月以降は内湾にシラスの漁場が形成されていないため、秋以降に加入して漁獲されるカタクチイワシは少ない可能性があり、前年並みと予測される。

4 カタクチシラス：漁獲量は前年を下回る

内湾では産卵が少ない可能性があるが、外海の親資源は豊富と考えられる。渥美外海沿岸の海況が良ければ外海に漁場が形成されると考えられるが、2025年12月のシラス漁獲量は過去最高と非常に多かったため、前年を下回ると予測される。

詳細は国立研究開発法人水産研究・教育機構のウェブページをご覧ください。

https://www.fra.go.jp/home/kenkyushokai/press/pr2026/files/20260803_ukiuo-pac-1st.pdf

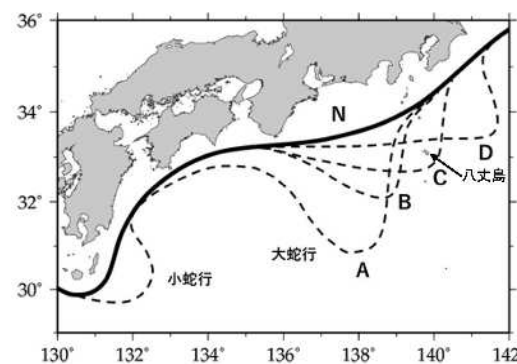


図1 黒潮流路の分類

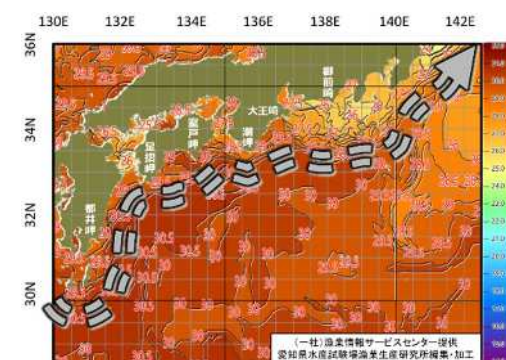


図2 8月3日の黒潮流路（N型）

令和8年度海とお魚漁業体験教室を開催しました

企画情報部 企画普及グループ

水産試験場では、毎年、県内の中学生を対象に、漁業に関する知識や技術を学び、漁業への関心を高めることを目的として「海とお魚漁業体験教室」を開催しています。

今年度は7月28日に開催し、11名に参加していただきました。漁業者や水試職員が講師になり、本県の漁業について学ぶ講義のほか、アサリ漁で使用される漁具（マンガ）を使った漁業体験、ロープワークや投網、プランクトン観察や魚の解剖・耳石採りなどさまざまなプログラムに取り組んでもらいました(図3)。

漁業体験では実際に海に入り、漁業者の指導を受けながらマンガを使って、アサリやハマグリなどの漁獲に挑戦しました。貝が獲れるたびに歓声が上がり、参加者は漁業の楽しさや難しさを実感している様子でした。投網体験では、最初は網をうまく開くことが出来ず苦戦していましたが、回数を重ねるごとに少しずつ上達しました。ロープワークでは、漁業者から繰り返し指導を受けながら熱心に練習する姿が見られました。耳石採り体験では、4種類の魚の耳石採りを行いました。特にマイワシの耳石は非常に小さく、見つけられたのは11名中1名でした。

参加者からは、「漁業が気になっていたのが良い体験になった。」「腰マンガや投網など海での体験が楽しかった。」「ロープ結びは日常でも使うので学べて良かった」などの感想が寄せられました。本教室を通じて、本県の漁業への理解と関心が深まり、夏休みの良い思い出のひとつになったことでしょう。

本教室は来年度も実施を予定しています。海や漁業に興味のある中学生の皆さんの参加をお待ちしています。



図3 教室の様子（左上：マンガによる漁業体験、右上：ロープワーク、左下：投網体験、右下：魚の解剖・耳石採り体験）

